

昆虫たんけん in 篠山

大塚剛二
(丹波篠山自然塾 むしクラブ)

はじめに

丹波地方は、由良川、武庫川、加古川と山々に囲まれた自然豊かな環境です。氷上回廊を通じて日本海側と太平洋側に住む昆虫や植物が行き来し、豊かな生物多様性を擁する地域です。2011年、「丹波にはどんな昆虫がいるのかな！ むちゅうになったことがありますか？ 本物に触れよう！！」を合言葉に、自然に興味を持つ人々が集まり、むしクラブを設立しました。以前から昆虫に興味を持つ仲間ともっとつながり、昆虫談義、自然談義をする場の必要性を痛感してきました。意欲を持ち続けるには、仲間が必要です。昆虫少年少女から、昔の昆虫少年少女の意欲ある人々とともに活動しています。

調査方法

定例会（小学生を含む）・大人会、それぞれ月一回行い、篠山市を中心に採集、調査を行っています。昼食時と終わりにそれぞれが観察、採集した昆虫を出し合い記録し、会報などで報告しています。

結果

自然環境が良く20台近くの駐車ができる観察地・採集地40箇所を選び、47回の定例会及び30回の大人会を開きました。記録された主な分類群の種数を挙げると、

オサムシ科 29種

カミキリムシ科 23種

コガネムシ科 31種

クワガタムシ科 5種

ハムシ科 17種

チョウ類 49種

トンボ目 55種 ハチ目 38種などでした。希少種もまだ健在であり、モートンイトトンボ、サラサヤンマ、グンバイトンボ、ハッチョウトンボなどのトンボ類や、オオムラサキ、ミスジチョウ、クロカナブン、アキオサムシなどが、篠山市や周辺にまだ生息していることがわかりました。



まとめと考察

近年の丹波地方では、里山の手入れが滞り杉・ヒノキ林の管理ができず林下が暗く、植物も生えないところが増え、それに加え鹿の食害、竹やぶの侵入で年々雑木林が少なくなっています。安易な農薬の使用も行われています。今何が生息し、消え去っていったか詳しく知り、見守ってゆかねばなりません。生物の住める環境を肌で感じ命に心動かす子ども達や、それを見守る大人が集まり、これからも新しい会員を増やし、更に充実したデータを積み上げてゆきたいと思えます。